

## 最高の喜びと満足感をもった人生

「私は彼のヒーローだったかもしれないが、今は彼が私のヒーローになっている。彼はフィギュアスケートの未来だ」

フィギュアスケート男子のエフゲニー・プルシェンコ選手が初の日本人金メダリストとなった羽生結弦選手へ送った言葉だ。

ソチ五輪に世界中がわく今、ひとりひとりの選手とその人生に人は強い感動を感じる。

プルシェンコ選手は競技直前の練習中ジャンプの着氷がうまくゆかず、苦し気な表情で腰を押さえ、審判のもとへむかった。「皇帝」と大歓声で迎える観客に、ただ頭を下げ、手を振ってリンクを離れた。彼の棄権を知った後の会場は驚きと落胆に包まれ、その後静かな拍手が起こった。

神に選ばれしアスリートには



世界中の英雄として頂点を極める時がある。しかしどんな英雄も永遠にそこには留まれないという過酷な運命も背負っている。

五輪は参加することに意義がある時代からメダルを取らねば意義がない時代になっているかのようにも感じる。だが、その中で勝負の結果の背景にある人間の生き様に一番胸打たれる。

仙台でスケートを学ぶ途中、東日本大震災に遭い、自宅倒壊、避難所生活をし、スケートを諦めかけるがその3年後、世界の頂点に立ち日本の男子フィ

ギュアスケートの歴史を作り替える偉業を達成した羽生選手にも尊敬と感動を感じる。

人類はどこまでも、心身の限界を超え可能性を追求し続けるのかもしれない。その度にヒーローが生まれそして去る。しかし、どの人も最高の喜びと満足感をもって人生を全うすることこそ大切ではないだろうか。2人のヒーローを見て強く思った。

(さとう・しのぶ＝声楽家)  
＝毎月第3金曜日掲載

